

平成19年度後期岡山大学大学院社会文化科学研究科博士前期課程入学試験問題

| | |
|------|---|
| 講座 | 経済理論・統計, 比較経済, 政策科学, 経営学, 会計学, 組織経済学 |
| 専門科目 | マクロ経済学 |

以下の2問とも解答しなさい。なお問題ごとに別々の用紙を用いなさい。

問1 ある国のマクロ経済が以下のように記述されているとする。

$$\text{消費関数} \quad C = \frac{1}{2}Y + 5,$$

$$\text{投資関数} \quad I = 10 - 3r,$$

$$\text{政府支出} \quad G = 5,$$

$$\text{実質貨幣需要関数} \quad L = 10Y - 40r,$$

$$\text{実質貨幣供給量} \quad M = \frac{100}{P},$$

ただし Y は国民所得, r は利子率, P は物価水準 (>0) を表す。

このとき, 以下の設問すべてに答えよ。

- (1) IS-LMモデル, すなわち財市場の均衡式 (=IS式) と貨幣市場の均衡式 (=LM式) を求めよ。
- (2) 上の (1) で求めたIS-LMモデルの均衡所得と均衡利子率を求めよ。
注意: それぞれ物価 P に依存する。
- (3) 総需要 (=AD) 曲線を Y - P 平面に可能な限り正確に図示せよ。
- (4) いま総供給 (=AS) 曲線が,

$$Y = 2P + 20$$
 で与えられたとする。このとき, AD-ASモデルにおける均衡所得水準と均衡物価水準を求めよ。
- (5) いま政府が支出を減らす政策を行った。そのとき, この経済において所得や物価にどのような影響があると考えられるか?

問2 以下の設問すべてに答えよ。

- (1) 現金通貨を C , 準備預金を R , 市中銀行の預金を D とする。信用乗数 (通貨乗数) をこれらの記号を用いて表せ。
注意: ハイパワード・マネー $\equiv C + R$, マネーサプライ $\equiv C + D$ である。
- (2) 準備率 (=準備預金・預金比率) を **0.05** , 現金・預金比率を **0.2** とする。信用乗数がいくらとなるか求めよ。
- (3) 日本では, 2001年末から2002年末にかけての1年間に, ハイパワード・マネー (マネタリー・ベース) が 80兆円から 95兆円へ増加し, マネーサプライ ($M2+CD$) が 670兆円から 685兆円に増加したとする。(ただし, これらの数値はおおよその値。) この期間の日本銀行の金融政策の有効性を, 現金の保有について言及しつつ, 簡潔に論じよ。
- (4) ゼロ金利政策とは何か, 日本における金融政策のこれまでと2007年2月14日現在の状況を含めて, 簡潔に説明せよ。ただし, 以下の二つの語句を説明文に含めよ。(カッコ内は語句の説明である。)

コールレート (民間金融機関間の取引が行われるインターバンク市場での短期金利。オーバーナイト物, 半日物, 翌日物, 期日物がある。)

日銀当座預金 (支払準備制度では, 市中銀行は, 預金残高の一定割合を日銀当座預金に無利子で預けなければならない。日銀当座預金は銀行相互の資金移転や日本銀行との資金取引にも使用される。)

以上